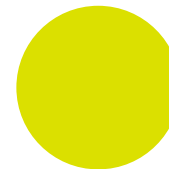
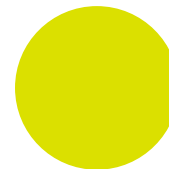
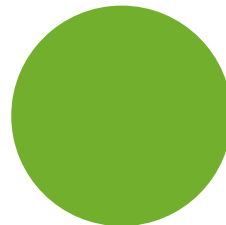
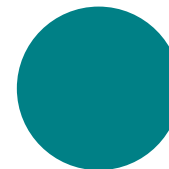
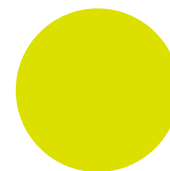


# イノアック CSRレポート 2019



## 企業理念

# 一本の大きな木を育てるより、 多くの個性ある木を育て、美しい森をつくる。

イノアックは「暮らしをもっと豊かにしたい」という思いから、ひとつの事業に特化することなく、ウレタン・ゴム・プラスチック・複合材という4つの苗をもとに、多くの事業(=木)を育て、企業体として多彩な製品、サービスを作り出し、社会へ貢献して参りました。イノアックはこれからも多くの個性ある木を育てることで、時代のニーズにお応えしていきます。

## Innovation & Globalization

イノアックは高分子化学で世界をリードし、迅速な決断と行動で、活気と個性に満ちたグローバル集団を目指します。それと共に「行動指針」を定め、社内外ともに裏表のない行動で「企業理念」を確実に実行・実現することで、地域社会、顧客、イノアックに関わる全ての人々に信頼されるブランドを確立します。

## 行動指針

- 挑戦** 自由に発想し失敗を恐れず行動します。
- 収益** 継続的な事業発展と利益ある成長を目指し行動します。
- CS** 顧客満足度を高めるよう行動します。
- チームワーク** 個性を発揮し、信頼される行動をします。
- 誠実・信頼** 虚偽を排し、信頼される行動をします。
- 責任** 責任を持って最後まで行動します。

| 報告期間 | 本報告書は株式会社イノアックコーポレーションにおける2018年度(2018年1月1日~12月31日)の活動実績をもとに作成  
※2017年度とそれ以前、2019年の内容も一部含む

| 対象範囲 | 株式会社イノアックコーポレーション単体の活動を中心に、一部国内外イノアックグループを含む

| 発行年月 | 2019年9月

| 参考とするガイドライン | ©「環境報告ガイドライン2018年度版」 ©ISO26000

## 目次

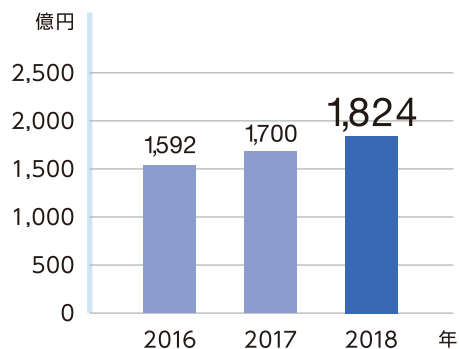
目次／企業理念／行動指針	01
<b>会社プロフィール</b>	02
会社概要	03
トップメッセージ	
事業紹介	
イノアックブランド	
技術革新	
<b>【特集】地球と人にやさしい製品開発</b>	08
植物由来原料を使用した製品の開発	
NCVプロジェクトへの参加	
マテリアルリサイクルの実現	
<b>自動車産業に向けてイノアックができること</b>	13
環境対応製品事例	
<b>環境との調和</b>	15
環境マネジメント	
環境負荷の低減	
化学物質の情報管理	
<b>価値向上のために</b>	20
品質向上の取り組み	
<b>社会とのコミュニケーション</b>	21
社会・地域貢献活動	
<b>働きやすい職場づくり</b>	23
ダイバーシティの取り組み／ワークライフバランスの推進	
人材育成	
安全衛生・防災	
<b>サプライチェーンマネジメント</b>	26
サプライチェーンマネジメント	
<b>ガバナンス</b>	27
コーポレート・ガバナンス	
コンプライアンス	

## 会社概要

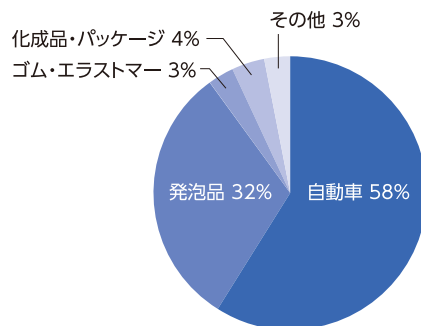
社名	株式会社イノアックコーポレーション INOAC CORPORATION
設立	1954年(昭和29年)
資本金	7億2,000万円
代表	代表取締役 井上聡一
社員数	1,917名(2018年12月)
売上高	1,824億円(2018年12月)
事業内容	ウレタン、ゴム、プラスチック、複合材をベースとした材料開発とその製品化により、自動車、二輪、情報・IT機器、住宅・建設関連から身近な生活関連商品、コスメ用品まで、生活のさまざまな場面に密着した製品を取り扱う
本社	〒450-0003 愛知県名古屋市中村区名駅南二丁目13番4号
本社(東京)	〒141-0032 東京都品川区大崎二丁目9番3号 大崎ウエストシティビル4F
事業所および工場	安城、桜井、吉良、新城、八名、石巻、南濃、西濃、羽生、秦野、豊橋、武豊
主要営業拠点	東京、中部、大阪、九州(支店)、札幌、東北、浜松、広島(営業所)
研究所	株式会社イノアック技術研究所、神野R&Dセンター
海外拠点	北米・中米、中国、アジア各国

## 売上

■ 売上推移



■ 2018年度事業分野別売上



## ネットワーク

### 国内主要拠点

イノアックコーポレーションの全国ネットワークに加え、系列・関連・合併会社が北海道から沖縄まで緊密な生産・販売ネットワーク体制を確立し、最適なソリューションを提供しています。



#### 〈関連会社〉

井上護謨工業(株)  
 (株)イノアックインターナショナル  
 (株)イノアック技術研究所  
 (株)イノアック住環境  
 日本フクラ(株)  
 (株)イノアックリビング 他

#### 〈系列会社〉

(株)北海道イノアック  
 (株)東北イノアック  
 (株)東日本イノアック  
 イノアックエラストマー(株)  
 (株)西日本イノアック  
 (株)九州イノアック

#### 〈合併会社〉

BASF INOAC ポリウレタン(株)  
 (株)ロジャースイノアック 他

### 海外主要拠点

北米・アジアを中心として、全世界13の国と地域で研究開発から素材の加工・成形技術、量産化までを提案・提供する体制を構築しています。

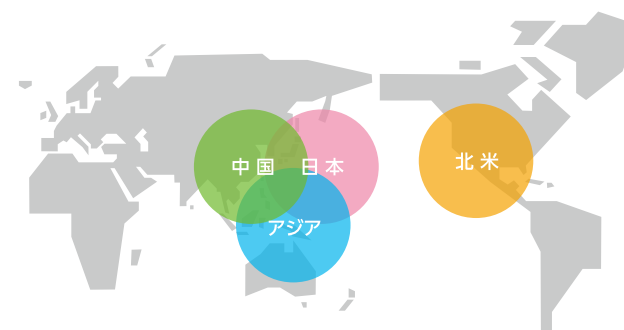


#### 〈北米・中米 18社〉

アメリカ 10社  
 カナダ 3社  
 メキシコ 5社  
 〈中国 18社〉  
 中国本土 17社  
 香港 1社

#### 〈アジア 35社〉

タイ 13社  
 台湾 3社  
 インドネシア 6社  
 ベトナム 5社  
 韓国 1社  
 シンガポール 3社  
 フィリピン 1社  
 マレーシア 1社  
 スリランカ 2社



# 今こそ、「INNOVATION」と「ACTION」の真価が問われるとき

株式会社イノアックコーポレーション  
代表取締役

翁 豊彦

### ■ 目まぐるしい変化の中で

近年、私たちを取り巻く社会情勢は目まぐるしい変化の渦中にあります。100年に一度の変革期を迎えているといわれる自動車業界に限らず、刻々と変わっていく世の中のニーズに応えるべく、生き残りをかけて多くの企業が変革を求められている時代。当社もまた例外ではありません。

2018年度においては増収となったものの、原油価格や物流コスト、電気料金などの上昇に伴って、国内外原材料メーカーで値上げが相次いだことが利益の伸びを阻みました。こうした中においても着実に設備投資を行い、福岡県行橋市、愛知県西尾市、宮城県栗原市に工場を新設。結果として減益にはなったものの、

2019年度に入って原料価格は下落に転じており、新工場の稼働もスタートしました。追い風をとらえ、しっかりと増益につなげていけるよう、取り組みを進めてまいります。

### ■ 働きやすく、地域に根ざした工場づくり

新たな工場の設立にあたって特に力を入れているのは、AIやIoTを取り入れた、より効率的で生産的な設備づくりです。これは今後予測される労働人口の減少に対応する省人化施策であるとともに、各拠点で働く従業員の負担を減らし、安全性の向上を図る取り組みでもあります。ものづくり企業として品質の追求は至上命題ですが、それを支える主体は従業員。ワークライフバランスや教育制度の充実を通じて働きやすい環境づくりを目指します。また、現場で生じたささいな異常であっても即座に全社で共有できるしくみを導入し、重大なインシデントになる前に対処できる危機管理体制を整えています。





また、工場は地域に根ざし、近隣にお住まいの方との良好な関係のもと稼働していくべきもの。立ち上げの際には事前に事業内容やその意義、周辺環境に与える影響などを説明させていただくようにしております。お寄せいただいたご指摘やご要望には真摯に応え、十分にご理解いただいた上で着工。雇用を創出し、操業開始後も折に触れて交流イベントを行うなど、継続的に地域に貢献していくことを心がけています。



## ■ まいてきたサステナビリティの種

本レポートでは「地球と人にやさしい製品開発」として植物由来製品を取り上げておりますが、こうした試みは当社にとって決して新しいものではありません。今を去ること40年以上前、私が入社して初めて開発に携わったのはパーム油を使用した材料開発でした。化成品といえれば化石由来が当たり前と思いついていた私は、植物由来の可能性を模索しようとする当社の姿勢に驚かされたものでした。同時期には生産した製品を原料に戻す研究も行われており、こちらもありサイクル利用の製品開発として結実、同特集にて紹介させていただいております。長年にわたりサステナビリティを意識して蓄え続けてきたこれらの技術こそ、今日のお客様のニーズに応えるための下地。経営者としてだけでなく、種をまいてきた元技術者としても、非常に喜ばしいことだと感じております。

## ■ 社会の一員として、さらなるチャレンジを

ここまでお話ししてきた取り組みの他にも、災害に見舞われた地域にお住まいの方々への復興サポート、文化的活動や教育への支援、







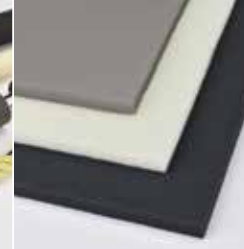






















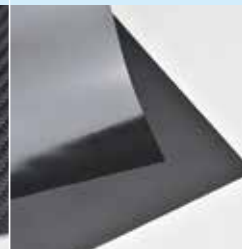


スポーツへの助成など、さまざまなかたちでCSR活動を行ってまいりました。これらの根底にあるのは、企業とは社会の一員であり、その改善と発展に寄与することが使命であるという考え方です。そもそも、各種素材の開発と提供という当社の事業活動は、その先に、より良い世の中を実現させるためのもの。その精神を忘れることなく、技術に磨きをかけ、柔軟かつスピーディな対応で、お客様の期待に応えていきたいと考えております。

急速に進むデジタルイノベーションや国際情勢の絶え間ない変動、国内における少子高齢化など、冒頭に申し上げたような変化は今後ますます加速していくことでしょう。こうした局面は、「革新＝INNOVATION」と「実践＝ACTION」に取り組み続けてきた当社にとって真価を問われるときでもあります。新しい時代を切り拓き、より多くの方々へ便利で豊かな暮らしを提供するべく、積極的にチャレンジを続けてまいります。

皆様には引き続きご指導とご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

# 事業紹介

～さまざまな分野で活躍するイノアックの素材～

分野	建築土木	産業機械	輸送機器	物流パッケージ	電気製品	IT機器	医療福祉	生活用品
ウレタン	PORON® WA 	セルダンパー 	チェラスト 	カラーフォーム® 	PureCell® 	EXROTH® 	モルトブレン 	キッチンスポンジ 
ゴム	住宅用目地ガasket 	クローラーパッド 	軌道パッド 	ゴム車輪 	Ksil™ 	トランスクル® 	車椅子タイヤ 	ラテックススポンジパフ 
プラスチック	U-ポリパイ® 	ウォーターフレックス® 	リアスポイラー 	P-E-ライト® 	バフター® 	FOLEC® 	MAPS® 	インジェクションブローボトル 
複合材	サーマックス®(軽量天井材) 	サーマックス® 	軽量天井 	クールシステム 	Rigid Light-Carbon 	PureCell® 	Rigid Light-Carbon(義足) 	イノタック(ガーデンテープ) 

# イノアックブランド INOAC brands

イノアックが生み出す素材をベースに、アイデアとテクノロジーで「機能」という付加価値をかたちにしてきました。デザインと機能性を両立したトータルインテリアをはじめ、多彩な素材を活かしたオリジナル製品や選り抜かれたセレクト商品で、私たちの快適な暮らしを支えています。



HUKLA



自転車用タイヤ、チューブの専門メーカーとして1926年の創立から今日まで培ってきた製造、事業経験、また30年以上の海外事業での経験を活かし、人々の生活を支えるタイヤから世界最高レベルのレースで勝利を勝ち取るためのタイヤまで、IRCブランドの製品を通じて人々の生活に新しい価値を提供し続けます。

美しいフォルム、使い心地のよさ。高い品質をベースに心地よくつるぎ・やすらぎのトータルインテリアをめざした家具づくりをしている日本フクラ。デザイン・マテリアルにこだわり、ナチュラルな質感や色・パターンを自由に使いこなしコレクションは心地よい暮らしを彩ります。

まるで心に咲くすみれの花のようなやさしい笑顔を、ケアする方にも、される方にもお届けします。すみれは、イノアックグループに蓄積されたさまざまなシーズ(素材や技術)を応用しながら、独自の製品開発を行なっています。特に身体に接する部分のやさしさを追求し、柔らかさを基本とした製品づくりで、「笑顔と笑顔でよりそう心」の実現を目指しています。



# 技術革新

## 研究開発

イノアックでは「暮らしを豊かにする」をモットーに、未来を見据え、創造性にあふれた研究開発に取り組んでいます。ポリマーを主体として各種ウレタン、プラスチックやエラストマーの配合・発泡・成形技術、その他複合材の技術を駆使し、自動車産業をはじめ産業資材・生活用品・情報通信・電子機器等の幅広い分野で常に新しい素材を提供しています。また同時に、環境負荷の軽減、軽量化、省エネルギー、高機能化の新製品、新プロセスの研究・開発を進めています。



## 研究・開発体制

イノアック技術研究所、神野R&Dセンター、グローバル技術本部を中心としてポリウレタン、ゴム、樹脂素材などの高分子材料技術をコア技術として、合成・配合技術、発泡・成形技術を磨き、独自の新しい材料開発を進めています。国内外の大学や公的研究機関との共同研究と技術開発も重要と考え、米国・中国・タイ等でもR&D体制を整備して、将来を見据えた新素材開発と応用開発研究を積極的に推進しています。各事業部の技術部門では成形加工技術、材料の複合化技術を用いた製品やウレタンフォームの耐熱性能、耐衝撃性能の高機能化を推進して、顧客ニーズに合った製品の開発を進めています。プロセス開発部門では独自のアイデアで自動化、コンパクト化した製造ラインを積極的に導入しています。



**JAPAN**  
株式会社イノアック技術研究所



**CHINA**  
SHANGHAI INOAC POLYMER PRODUCTS CO., LTD.



**USA**  
INOAC USA, INC.



**THAILAND**  
INOAC (THAILAND) CO., LTD.

## 地球と人にやさしい 製品開発



グローバル技術本部  
本部長 岩永 健太郎

### ニーズに応えるイノアックの環境配慮型製品

マイクロプラスチックによる海洋汚染問題、また再生不能なプラスチックの廃棄物処理問題などがグローバル規模の社会課題となっており、こうした問題への対応が、プラスチック業界や各メーカーに強く求められています。そうした中、当社では、植物由来樹脂への変更等を推進することで、環境問題に対して取り組んでおります。環境への負荷が少ない植物由来製品へのニーズは急激に高まっており、今後ますます加速することが予想されます。また廃棄物の削減として、従来は再生ができなかった端材等の粉碎し改質をすることによる熱可塑性樹脂の再生。植物由来樹脂に代えて炭酸ガス総排出量を低減するカーボンニュートラルな材質へ切替えた製品開発を進めています。

また、京都大学をはじめ21の大学、研究機関、企業など産官学が共同で推進するNCV (Nano Cellulose Vehicle) プロジェクトに参加し、多角的にCNF (セルロース・ナノ・ファイバー) の可能性を研究しています。CNFは天然素材というだけでなく、樹脂の補強フィラーとしての効果が高く、将来的にもその利用価値が期待されています。CNFは軽量かつ剛性の高い製品を作ることに適しており、自動車の軽量化による燃費向上などに寄与し、間接的ではありますが、エネルギー消費削減が期待できます。

これからもグローバル市場における多様なニーズにお応えすべく、植物由来樹脂の利用促進や再生利用方法の検討、省エネルギーに関係する軽量化や断熱機能を持った発泡体の開発にも積極的に取り組んでまいります。

### 業界をリードする研究・開発と人材育成

新たなソリューションを社会へご提案・ご提供するため、当社はイノアック技術研究所、グローバル技術本部が研究開発の中核拠点となり、各事業部、関連会社をあげて環境配慮製品の開発に取り組んでいます。海外においても北米や中国など、地域別のニーズに合わせた環境配慮製品の開発を進めており、グループ全体で情報を共有化し、技術力のさらなる『進化』と『深化』に注力します。人材育成においては国内外での原料メーカーや顧客との協業、教育機関の連携、展示会での情報収集を通じて積極的に取り組んでおります。また研究留学を実施することで、情報を常にアップデートしながら研究開発を進めています。

### これからも地球と人にやさしい素材メーカーとして

大量生産、大量廃棄、そして大量のエネルギーを費やす従来の社会構造は成立しなくなります。循環型社会の実現において、素材に求められる役割は非常に大きく、そのニーズはますます高まるものと考えています。環境への負担・負荷が少なく、省エネルギーへとつながる技術の開発は、これまで日本が先行してきた領域であり、当社もあらゆる産業を下支えする素材メーカーとして、これからも地球と人々の暮らしにやさしい製品の開発・提供に努めていきます。



# Case.1 植物由来原料を使用した製品の開発①

## サトウキビの搾りカスをリユースしたポリオレフィンシート

イノアックグループのアイシート工業(株)では、サトウキビの搾りカスを原材料の一部に使用したポリオレフィンシートの研究・開発に取り組んでいます。

本開発品は既存の石油由来ポリオレフィンシートと同等の品質・物性を持ち、同様の真空成形性・用途展開が可能です。

また、植物固定した原材料を使用しているため、燃焼時のCO<sub>2</sub>排出量を低減できます。

CO<sub>2</sub>ライフサイクルにおいては【植物固定】→【バイオプラ生成】→【燃焼・大気放出】に対応しており、循環型社会に貢献する製品といえます。

また原材料となるサトウキビの主な生産地は牧草地からの転換地であるため、森林伐採・環境破壊に寄与しません。

トウモロコシ由来の材料と比較しても製造エネルギーコストが低く、食料・飼料と競合しないのも利点です。

石油由来が多い食品・工業用部品トレーの代替として拡販を進めています。

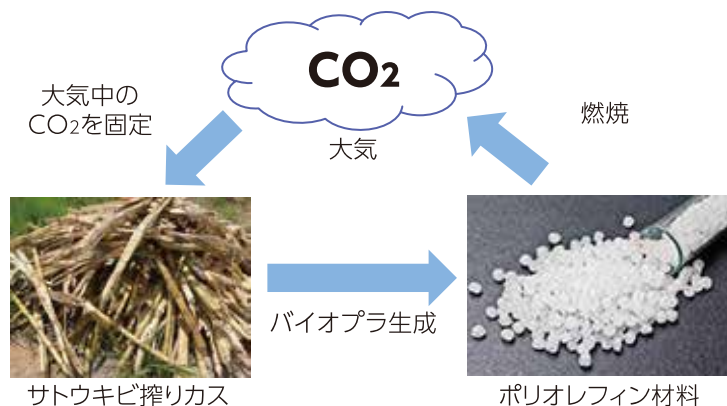


アイシート工業(株)  
開発技術部  
笠田 純一郎

### ■ サトウキビ搾りカスを使用した原料の特徴

- 従来の石油由来品と同様に使用可能  
物性・品質・成形性同等
- 循環型社会に貢献可能な材料  
CO<sub>2</sub>ライフサイクル
- 環境保護と食糧問題へ影響しない  
生産のための森林伐採が不要。  
サトウキビ搾りカスは食料・飼料の用途なし。

【CO<sub>2</sub>ライフサイクルイメージ】 ※本開発品は生分解しません。



### ■ 製品事例

- 食品・工業用部品トレーなど  
(石油由来品からの代替)



# Case.2 植物由来原料を使用した製品の開発②

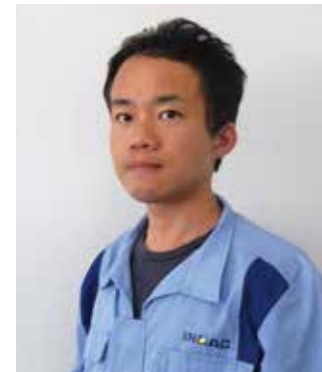
## 植物由来原料を使用したウレタンフォームの開発

持続可能な社会に貢献するには、限りある資源を有効に活用することが企業にとって重要な活動のひとつだと考えています。

当社の主要素材であるウレタンフォームの材料はそのほとんどが石油由来ですが、限りある化石燃料資源の枯渇防止や環境に配慮し、植物由来原料の開発に取り組んでいます。

植物由来（例えばひまし油、パーム油、大豆油など）のポリオールを使用し、現在、植物由来原料を高比率にした製品開発を進めています。

これからも植物由来原料の比率を高める開発を進めていくことでカーボンニュートラルによる二酸化炭素排出削減をし、地球温暖化の防止に貢献していきたいと考えています。



高機能材料事業本部  
発泡品事業部  
ウレタン技術部  
後藤 康正

### ■ 従来品（石油由来）と同程度の物性を維持

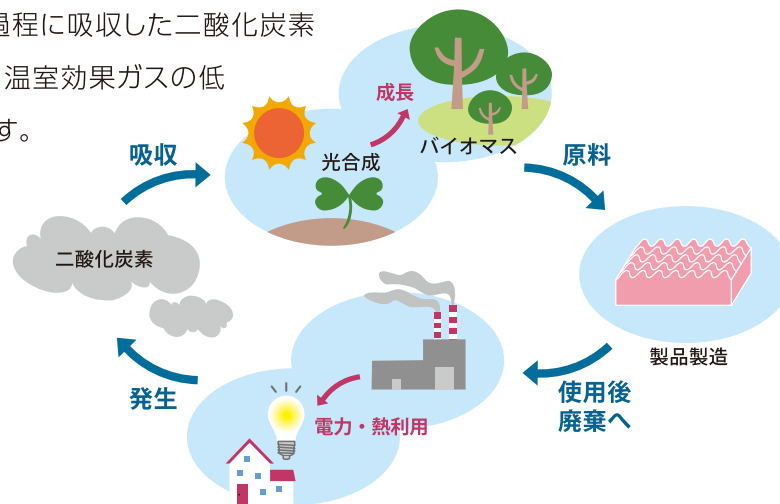
一般的に植物由来原料を使用した製品は硬くてもろくなりやすいため、石油由来原料を使用した製品と同等の物性を維持することが困難ですが、現在開発中の製品は従来品と同程度の物性を維持できるレベルまで到達しました。

### ■ 植物由来原料を使用する利点

- カーボンニュートラルによる二酸化炭素濃度の低減  
→地球温暖化の抑制
- 化石資源への依存を低減  
→限りある資源の枯渇を防止

### ■ カーボンニュートラルによる二酸化炭素排出削減

植物由来原料を使用することで、製品を燃やして排出される二酸化炭素と、植物が成長過程に吸収した二酸化炭素が同量になり温室効果ガスの低減に貢献します。



# Case.3 NCVプロジェクトへの参加

## 軽量化を実現するセルロースナノファイバー(CNF)

当社は、CNF(セルロースナノファイバー)を活用し自動車の軽量化を目標とした、産官学連携プロジェクト「NCVプロジェクト」に立ち上げ当初より参加しています。

「NCVプロジェクト」は環境省・京都大学を中心とし、鋼鉄の5分の1の軽さで5倍以上の強度を有する次世代素材CNFを活用し、2020年に自動車で10%以上の軽量化を目標に活動しています。当社は2020年3月まで「NCVプロジェクト」において自動車部品としての可能性を検証し2025年度までには実用化を目指しています。

現在はCNFを用いて樹脂の高強度化を図り、軽量化を兼ねた樹脂発泡成形品で自動車樹脂部品の開発を進めています。樹脂材料にCNFを10%添加、発泡成形技術との組み合わせで従来の成形品より20%の軽量化を達成しました。

研究、開発を通じて、カーボンニュートラルな材料への置換え、石油由来樹脂の使用量を削減し、軽量化による車両の燃費向上にも貢献していきます。



グローバル(自動車関連事業本部)  
開発本部 評価技術部  
部長  
鈴木 裕明

### ■ NCVプロジェクトとは

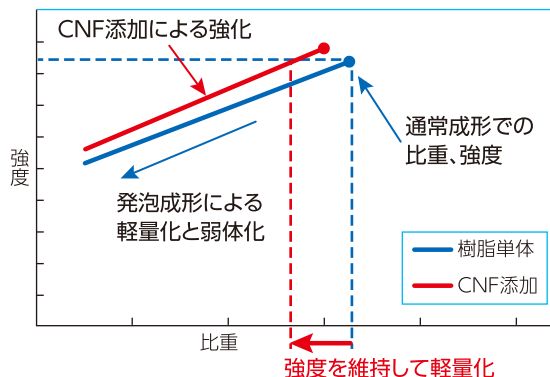
NCV(Nano Cellulose Vehicle)プロジェクトとは、軽量で高い強度を持つ次世代素材のセルロースナノファイバー(CNF)を自動車分野へ応用し、車両の軽量化による燃料向上、CO<sub>2</sub>削減を目指して環境省が立ち上げ、京都大学を代表機関とした産官学の20以上の機関が参加しているプロジェクトです。

<http://www.rish.kyoto-u.ac.jp/ncv/>

### ■ CNF添加による樹脂の強化

#### ●技術・製品の特徴

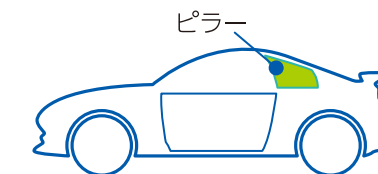
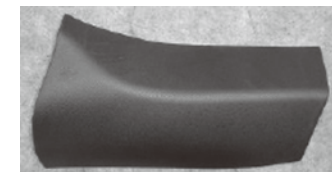
CNF添加による樹脂の強化で発泡による強度低下を補う。



### ■ 製品事例

#### ●樹脂発泡射出成形品

(自動車内装 ピラーCNF10%添加製品)



# Case.4 マテリアルリサイクルの実現

## ポリエチレン発泡端材の再生化

自動車部品の製造(真空成形)工程で発生するポリエチレン発泡端材を他の製品へとリサイクルするための材料ペレット化に取り組む「マテリアルリサイクル」を計画しています。毎月平均4トン以上も発生していた産業廃棄物を100パーセント削減し、廃棄物をゼロにすることが最終的な目標です。

開発ポイントとして架橋発泡体の減容方法、脱泡方法、架橋切断方法などに配慮したリサイクル方法を確立することに注力しました。

従来の廃棄物焼却エネルギーを活かした「サーマルリサイクル」だけでなく、これからは廃棄物を製品として再生させる「マテリアルリサイクル」の活用に取り組んでいきます。

リサイクルペレット材料を製品へ100パーセントリターンする技術の確立を目指し、今後も開発を進めていきます。



グローバル自動車関連事業本部  
開発本部 樹脂製品開発部  
係長  
杉江 信二



グローバル技術本部  
材料技術部  
樹脂材料開発室  
高森 義久

### ■ 産業廃棄物のゼロ化へ

毎月平均4トン以上発生する産業廃棄物を100%削減することを目標にしています。



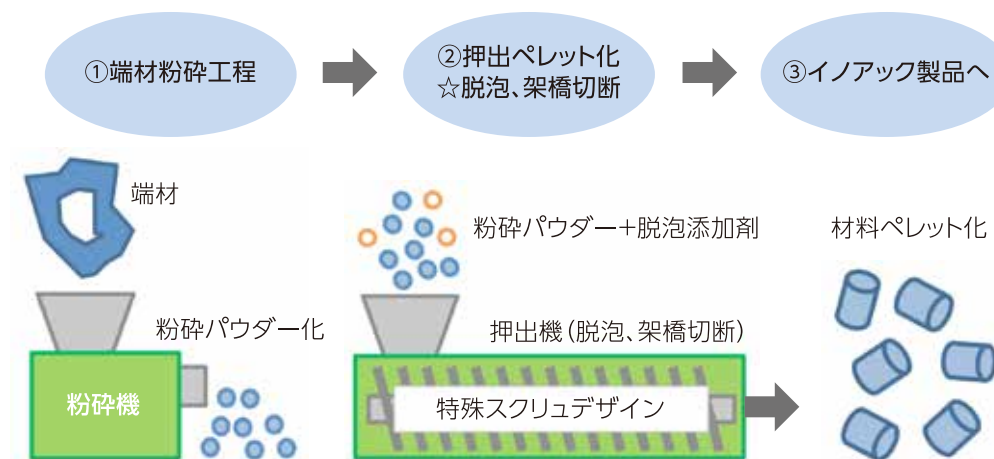
端材等の産業廃棄物



ペレット化

目標  
廃棄物を  
100%削減

### ■ リサイクル工程





# 自動車産業に向けて イノアックができること

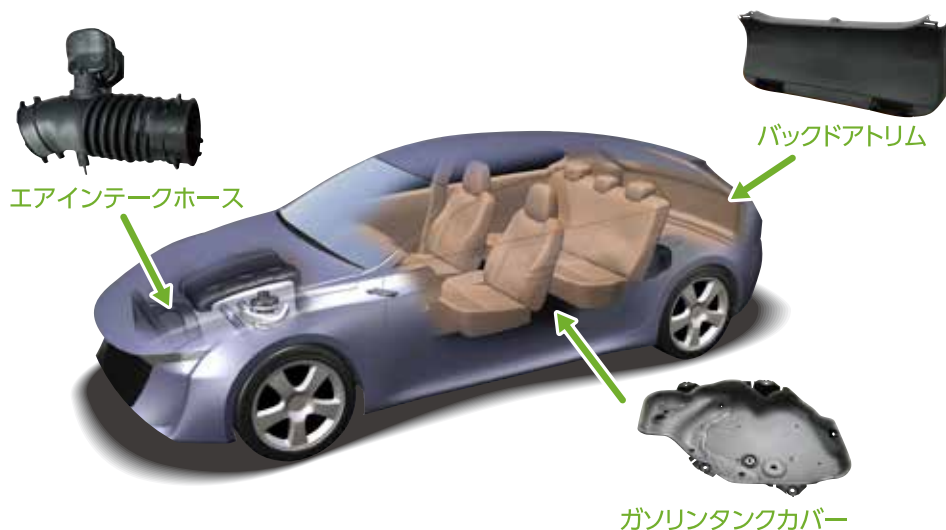
100年以上の歴史を有する日本の自動車産業が、ここ数年大きなターニングポイントに差し掛かっています。

リーマンショック以降の度重なる経済危機や今年に入り激化した米中貿易摩擦が、日本の自動車産業にも大きな影響を与え続けています。

変動する経済環境といった外的要因にも自動車関連企業がフレキシブルに対応し、自動車産業全体の持続的成長を図ることが、日本経済の未来を切り拓くための重要課題といえます。そして、経済的な問題とは別に自動車産業が考えなくてはならないのが、CO<sub>2</sub>排出量規制に代表される環境問題です。

自動車製品部門を抱えるイノアックもメーカーとして、地球環境に及ぼす影響の大きさを認識すると同時に、より環境と調和した発展を遂げていくことが使命だと考えています。

CO<sub>2</sub>排出量規制・排ガス規制等の環境規制に対応出来る部品の開発を推進し、実用化されている製品の一部を紹介します。



## 環境対応製品事例①

**製品名** 揮発燃料の低減「燃料タンクカバー」

**テーマ** 排ガス規制対応

**キーワード** 断熱性

ガソリン由来の自動車は燃料蒸発ガスが排出され、環境汚染の原因物質に挙げられています。そのため、国内外において燃料蒸発ガスの排出量に対する低減対策(エバポ規制)が実施されており、燃料タンクからの蒸発ガスを抑えるためのタンクカバーを開発しました。

### 特徴

#### 燃料タンクカバーとは

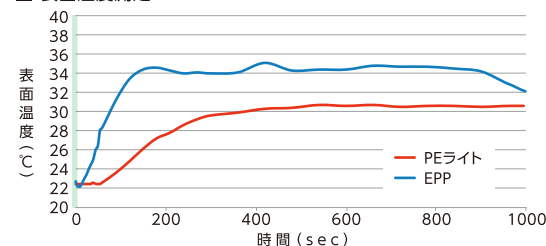
燃料タンクを断熱するためのカバーであり、タンクの温度上昇を抑えるもの。



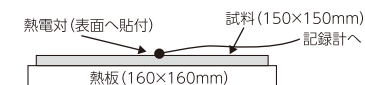
#### 断熱性

一般的なEPP(ビーズ発泡ポリプロピレン)よりも断熱性に優れるPEライト(ポリエチレン発泡体)を使用。

#### 表面温度測定



測定方法: 60°Cの熱板上に  
評価サンプル(素材)を置き  
評価サンプル表面温度を計測

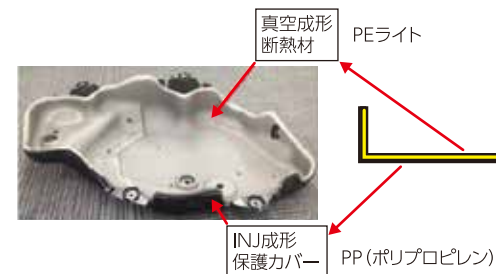


※当社計測による代表値

#### 成形の優位性

真空成形や折り曲げ加工が可能。タンク形状に追随し仕上がりが良好。

#### 真空成形品+INJ品





## 環境対応製品事例②

**製品名** 大型射出成形の軽量化「バックドアトリム」

**テーマ** CO<sub>2</sub>排出量規制対応 **キーワード** 軽量化

樹脂発泡技術の向上により、大型射出成形品であるバックドアトリムの軽量化を実現。強度・精度を保ちながら従来のポリプロピレン成形品より軽量化を実現しました。

### 特徴

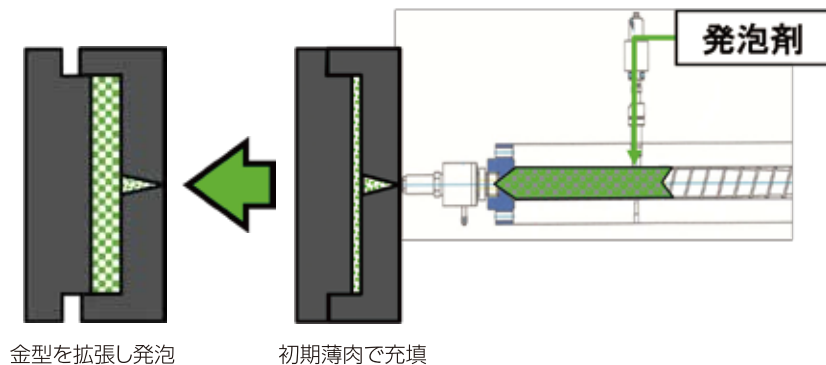
#### ■大型射出成形品技術による軽量化と剛性の両立

射出成形後、金型をコアバック※させることで、金型にあるガスが膨れ、金型面へ追従することによりさらなる肉厚と軽量化を同時に実現。

また、表面ソリッド層と発泡層(中央部)を持つ成形が可能となり、さらに板厚を上げることで軽量化と剛性を確保しました。



※コアバックとは  
射出発泡成形のプロセスにおいて金型キャビティ容積を拡大させ、気泡を拡大させることによって高倍率の発泡成形品を得る手法



## 環境対応製品事例③

**製品名** オレフィン系熱可塑性エラストマーによる軽量化「エアインテークホース」

**テーマ** CO<sub>2</sub>排出量規制対応 **キーワード** 軽量化

エンジンルーム内の温度下でエンジンの振動に耐える柔軟性がエアインテークホースには必要です。従来は、加硫ゴム (EPDM) が主流でしたが、軽量化に配慮しオレフィン系熱可塑性エラストマーへの切り替えを行なっています。

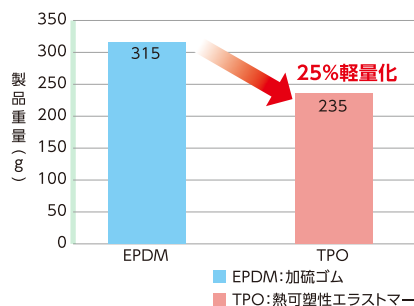
### 特徴

#### ■エアインテークホースとは

外部からの空気をエンジンに取り込むための吸気管。



#### ■軽量効果



※当社計測による代表値

#### ■オレフィン系熱可塑性エラストマー (TPO)

可塑性を持った高分子と弾性を持った高分子を物理的に混合した材料。通常の射出成形が可能であり、またリサイクルできる素材。

#### ■製造エネルギーの抑制

加硫ゴムは型内での加硫反応が必要のため、成形温度は高く、また成形サイクルも長くなりますが、熱可塑性エラストマーは可塑性した材料を型内で冷やし成形するため、成形時の金型温度は低く、製造エネルギーを抑えられ、製造時におけるCO<sub>2</sub>排出も抑制します。

## 環境理念

イノアックは、環境と調和するテクノロジーと、環境を大切に  
 する企業活動を通じて、かけがえのない地球の自然環境を尊重し、豊かで暮らしやすい社会の実現に貢献します。

## 環境方針

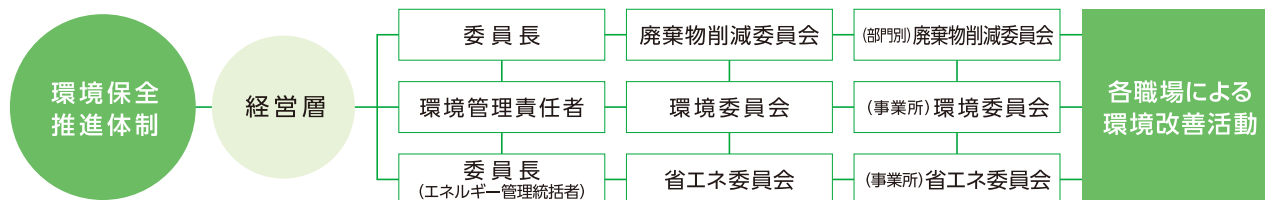
- ①環境関連の法規制及びその他要求事項を順守し、社会に信頼される事業活動を行います。
- ②地球温暖化防止のため省エネルギーなどのCO<sub>2</sub>排出の低減活動を推進します。
- ③循環型社会に貢献できるよう省資源・廃棄物削減・リサイクルの活動に積極的に取り組みます。
- ④環境影響の可能性がある化学物質を適切に管理し、リスクを抑えて環境保全を図ります。
- ⑤環境に優しい製品の開発を積極的に推進し、ライフサイクル全体に渡って自然環境の保護に貢献します。
- ⑥環境マネジメントシステムを推進し、従業員の環境教育や環境監査を実施し継続的な改善を進めます。
- ⑦良き企業市民として、地域の環境保全活動を通じて、持続可能な社会の構築に貢献します。



## 環境マネジメント体制

環境活動を組織的に推進するため、トップマネジメント直轄で環境管理責任者が環境に関する統括管理を行い、環境委員会によって会社全体での環境活動を行っています。産業廃棄物と省エネルギーについては専属部会を設置し、より一層の低減推進を図るとともに、各部会で連携をとり環境マネジメントを推進しています。また、2017年に移行したISO14001:2015年版に適合した活動が、より根付いたものとなるよう目標管理において本業との関わりの強化を進めています。

■ 環境保全推進体制



## 内部環境監査

環境マネジメントシステム運用の状況をチェックするため、内部環境監査を実施しています。監査チームは社内で規定された監査員研修を修了した2~3名でチームを編成し、環境マネジメントシステムの適切な運用、維持・向上が図られているかを確認しています。この中では、近隣サイト間で一部監査員の交流を行ったり、現場でのチェックを強化する監査自体の質の向上も図っています。

## 外部環境審査

環境マネジメントシステムの運用がISO14001:2015年版に従って適切に行われているか確認するため、社外の審査登録機関である一般財団法人 日本品質保証機構 (JQA) に審査を依頼しています。2018年度は、(株)東日本イノアックの拡大審査も合わせて実施しました。その結果、改善指摘事項は発見されず、システムが維持されていると判断されました。また総合所見として、リスク・機会から個々の部門の業務に即した目標へ展開することの課題などが挙げられました。

## 2018年度 主要活動総括

イノアックにおける2018年度の主な環境取り組み結果は、下記表の通りです。エネルギー使用に伴うCO<sub>2</sub>排出量については、引き続き省エネ委員会が主体となって各種の取り組みを行い、目標を達成しました。廃棄物処理量については再資源化や不良対策など排出削減を進めましたが、有価物市場が年々厳しくなっており目標未達となりました。PRTR対象物質の排出量は、前年に実施した各種施策の効果がひと段落し、さらには設備移設・撤去に伴う廃液処理が重なり、わずかに未達となりました。

取り組み項目	2018年度活動方針・目標		2018年度活動実績	結果
エネルギー 使用量削減	工場系サイト	原単位(CO <sub>2</sub> 排出量/生産金額) 0.684以下 [CO <sub>2</sub> 排出量 61,095t-CO <sub>2</sub> (2017年実績)]	原単位 0.644 [CO <sub>2</sub> 排出量 59,563t-CO <sub>2</sub> (2018年実績)]	🌳
	事務所系サイト	CO <sub>2</sub> 排出量 178,383kg-CO <sub>2</sub> 以下	CO <sub>2</sub> 排出量 173,753kg-CO <sub>2</sub>	🌳
廃棄物削減	工場系サイト	原単位(処理量/生産金額) 0.0637以下 [処理量 5,684t(2017年実績)]	原単位 0.0731 [処理量 6,766t(2018年実績)]	🌱
	事務所系サイト	処理量 1,524kg以下	処理量 1,133kg	🌳
PRTR対象物質 排出移動量削減	原単位((排出量+移動量)/生産金額) 1.96以下 [排出量+移動量 175,450kg(2017年実績)]	原単位 2.04 [排出量+移動量 188,693kg(2018年実績)]	🌱	
環境改善活動	環境改善件数(全社トータル)1,250件以上	1,561件	🌳	
環境コミュニケーション	CSRレポートの発行	発行	🌳	

🌳 目標達成 🌱 目標未達成

※主要活動総括の集計対象事業所は次の通りです。

- (株)イノアックコーポレーション 安城事業所、桜井事業所、南濃事業所、八名事業所、石巻事業所、池田工場、池田第二工場、大野工場、神野工場、浮羽工場、本社(名古屋/東京)、大阪支店
- (株)イノアック住環境 揖斐川事業所、甲府事業所 (株)九州イノアック 菊池工場、浮羽工場、北九州工場
- (株)テクノフォームジャパン 本社、埼玉工場 (株)九州カラーフォーム (株)東日本イノアック

※集計範囲に(株)東日本イノアックを追加  
 ※エネルギー使用量の目標管理を原油換算使用量からCO<sub>2</sub>排出量に変更  
 ※廃棄物処理量の目標管理の原単位の単位を変更

## 環境法規制の順守

イノアックでは、事業活動に関連する環境法規制を特定し、日常管理を行っています。各事業所において、環境マネジメントシステムの一環として、騒音や産業廃棄物処理など法に基づく適切な対応ができていないか、監視・測定及びその評価で、環境汚染の未然に防ぐなど環境リスク管理を行っています。今後も企業倫理ののっとり、環境法令順守の徹底はもとより自治体との環境保全協定等についても、厳正に順守していきます。

### ■ 当社の事業活動における主な環境関連法規

- 大気** 大気汚染防止法、自動車NOx・PM法、ダイオキシン類対策特別措置法
- 水質・土壌** 水質汚濁防止法、浄化槽法、下水道法、土壌汚染対策法
- 騒音・振動・悪臭** 騒音規制法、振動規制法、悪臭防止法
- 化学物質** 化学物質排出把握管理促進法、毒物及び劇物取締法
- 省資源・循環** 省エネ法、容器包装リサイクル法、フロン排出抑制法、PCB処理特別措置法、廃棄物の処理及び清掃に関する法律
- 防災** 消防法、高圧ガス保安法
- 一般・その他** 工場立地法、特定工場における公害防止組織の整備に関する法律(公害防止組織法)、電波法

※地方公共団体の条例等については割愛 ※一部略称法にて表記

## 緊急事態の訓練

各事業所の特性に応じた事故・緊急事態の特定を行い、火災や設備などによる化学物質(油類・溶剤等)の漏えいなど環境汚染の予防及び拡大防止のため、定期的な訓練を実施しています。安城事業所では、2018年5月29日、11月8日に全体防災訓練を、それ以外に原料流出防止訓練や夜間避難訓練など、部門毎の特質に即した個別の訓練を実施しています。その他の事業所においてもそれぞれ非常時の訓練を行い、有事に備えています。



安城事業所／消防隊による放水



桜井事業所／初期消火の訓練



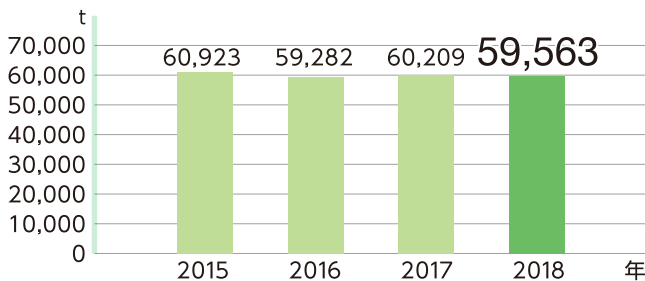
南濃事業所／原料漏えいの対処

# 環境負荷の低減①

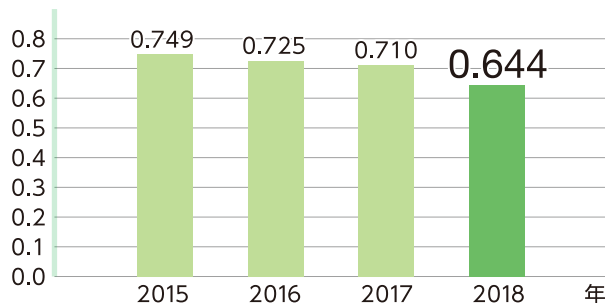
## エネルギー使用量削減

地球温暖化防止に貢献することを目指し、省エネを推進することでCO<sub>2</sub>排出量の削減に取り組んできました。具体的な活動としては、クーリングタワーのインバータ化や窓ガラスへの遮光フィルム施行などによる電力使用削減、金型へ断熱塗料を塗布し放熱防止で金型温調用の重油削減、ボイラー室タンク・工場屋根の断熱対策の実施を推進しました。2018年のエネルギー使用に伴うCO<sub>2</sub>排出量は2017年比で微減、原単位では約9%の減少となりました。

■ エネルギー使用量 (CO<sub>2</sub>排出量 (t-CO<sub>2</sub>))



■ エネルギー使用量原単位 (CO<sub>2</sub>排出量 (t-CO<sub>2</sub>)/生産金額 (百万円))



[取り組み事例]

### 2018年 省エネ推進 重点実施内容

排熱利用の低温乾燥室を設置、乾燥用のエネルギー使用量削減

金型へ断熱塗料を塗布し放熱防止で金型温調用の重油削減

超音波式エア漏れ探知機によるエア漏れ対策

工場屋根のカバー工法による断熱

クーリングタワーのインバータ化による電力使用削減

イノアック製「セルシェード」を窓ガラスに施行し空調用電力削減

ボイラー室のタンクへ保温ジャケットの取り付け

コントロールスイッチによるLED照度管理



「セルシェード」の窓ガラスへの施工



タンク保温ジャケット取り付け



金型への断熱塗料

### その他の地球温暖化防止の取り組み

イノアックでは、その他にもさまざまな視点から地球温暖化防止に取り組んでいます。夏期にはサマーエコスタイルキャンペーンと題してクールビズをはじめとする従業員の節電対応の啓蒙を行っています。物流においても、共同輸配送(ミルクラン)、鉄道・海運へのモーダルシフト、物流拠点集約などの活動に取り組ん

でいます。また、環境省が推進している「CO<sub>2</sub>削減/ライトダウンキャンペーン」に毎年参加しており、2018年度も夏至(6/21)と七夕の日(7/7)にグループ会社を含めた10施設で実施しました。



## 環境負荷の低減②

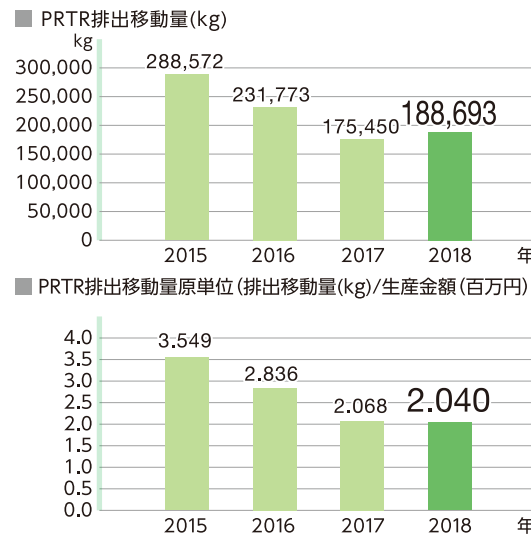
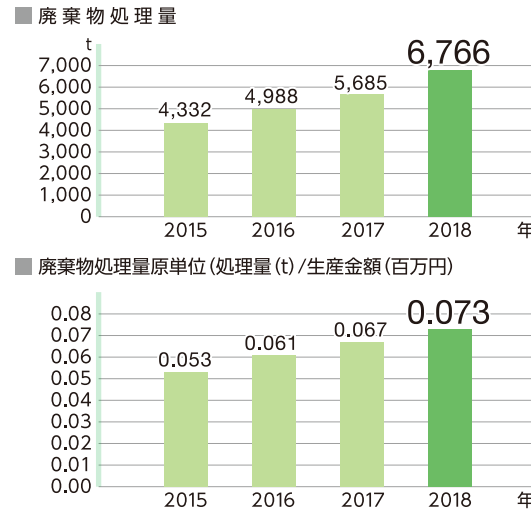
### 廃棄物削減活動

廃棄物削減活動については、全社廃棄物削減委員会を中心に、不良削減や歩留まり向上によるロス低減、古紙の分別による再資源化といったリサイクル資源としての活用の拡大や、端材を活用したリサイクルマット(右側掲載記事参照)の拡販などによる排出削減に取り組んでいます。しかしながら年々有価物(引取り)の市場が厳しくなってきたこともあり、産廃として処理せざるを得ない状況も多くみられます。

### 環境負荷物質低減活動

イノアックではウレタンフォームの原料であるトリレンジイソシアネートや、塗装工程におけるキシレンやトルエンなどのPRTR対象化学物質を使用しています。それらの対象化学物質の取扱量や排出・移動量の削減の取り組みとして、引き続き洗浄剤として使用する1-ブロモプロパンの代替化などを推進しましたが、生産増や老朽化設備の撤去にともなう廃液処理もあり、排出・移動量としては約8%増加し、生産高原単位ではほぼ横ばいの状況でした。

※1-ブロモプロパンについては2019年5月に代替化を完了しました。



### リサイクルマット「ペレマット」の開発・拡販

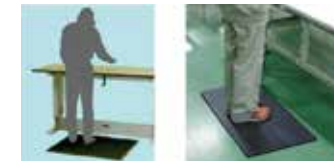
自社で生産しているゴムスポンジの端材をチップ状に粉碎し、シート状に固めて、「ペレマット」という商品名で販売しています。空気層を持つゴムスポンジがベースで軽量かつ断熱性に優れ適度なクッション性も持ち合わせています。さらに表面が滑りにくいいため、作業時の足への衝撃を緩和するため、工場内の作業用マットとして最適です。以前は産業廃棄物として埋め立て処理されていた不要な端材を活用することで、廃棄物の削減に貢献しています。



ゴムスポンジのスキ皮(不要な端材)

チップ材(粉碎後)

製品(成形後)



使用例:作業マット(立ち作業疲労軽減)



従来のゴムマットに比べ、ペレマットP-500は幅が大きく、気泡があるため、弾力性があり軽量です。

※P17.18の環境データに関する集計対象事業所

◎(株)イノアックコーポレーション/安城事業所、桜井事業所、南濃事業所、八名事業所、石巻事業所、池田工場、池田第二工場、大野工場、神野工場、浮羽工場、本社(名古屋/東京)、大阪支店

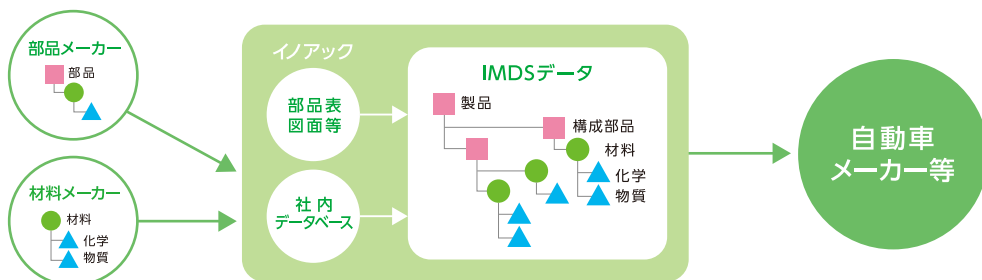
◎(株)イノアック住環境/揖斐川事業所、甲府事業所 ◎(株)九州イノアック/菊池工場、浮羽工場、北九州工場 ◎(株)テクノフォームジャパン/本社、埼玉工場 ◎(株)九州カラーフォーム ◎(株)東日本イノアック



## IMDSやchemSHERPA等の利用促進

イノアックでは特に主力となる自動車分野において、IMDS<sup>\*1</sup>を利用した化学物質情報の登録および顧客への報告を行っており、サプライチェーンを通して必要情報を収集し、IMDS登録を行う管理体制を整えています。

■ イノアックにおけるIMDSの情報収集～報告の流れ、化学物質管理の仕組み



また、電機業界を中心に広く産業界で利用されてきているchemSHERPA<sup>\*2</sup>フォーマットによる情報収集や顧客への報告にも対応しています(従来使用されていたJAMPフォーマットからの移行を実施)。

<sup>\*1</sup> IMDS (International Material Data System) : 欧州ELV指令への対応に端を発して開発された自動車業界における材料・化学物質情報を伝達・収集するインターネットを利用したデータベースシステム。

<sup>\*2</sup> chemSHERPA (ケムシェルパ) : 経済産業省が主導して開発されたサプライチェーンにおける製品含有化学物質情報の伝達のための統一フォーマット。

## 社内データベースの構築

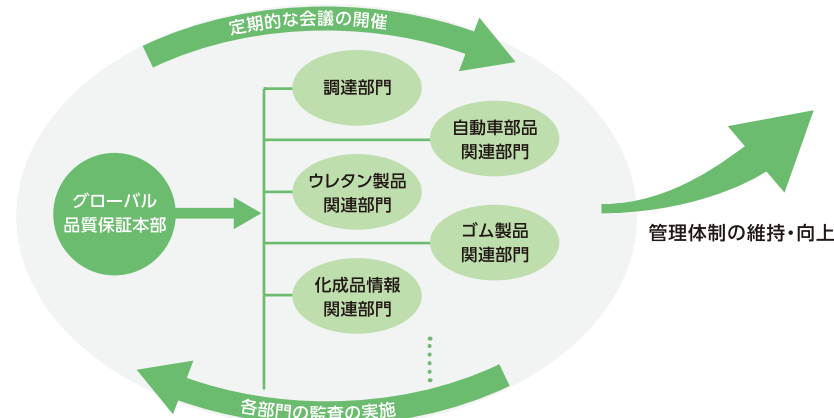
自動車部門では、購入部品や原材料に含まれる化学物質の情報を一元管理する社内データベースを更新し、法規制の変更等に柔軟に対応する事で、IMDSへの登録や製品含有化学物質調査において、作業の効率化や報告内容の精度向上のさらなる品質向上に努めています。

## グリーン調達基準の制定・運用

各種法規や顧客等により規制される化学物質や、含有量を把握して削減に努めるべき化学物質などをリスト化してグリーン調達基準として調達先に提示し、購入する原材料に含有する化学物質情報の把握に利用しています。

## 化学物質管理のコミュニケーション

環境管理に関する全社組織であるグローバル品質保証本部が主体となり、2か月に1回の頻度で各事業部の化学物質管理部門を招集して会議を開催。グリーン調達基準の見直し、管理体制の確認や運用ルールの制定、REACH規制やRoHS指令等の化学物質規制の最新動向に関する意見交換などを行うとともに、定期的に各事業部に対して管理体制の監査を実施。適切で確実な管理体制の維持・向上に努めています。



## グローバル競争で求められる品質の透明性

イノアックグループでは、お客様に安心・安全にご使用いただける製品の品質を保証し、ご満足いただける商品やサービスを提供する為に、ISO9001を基本とした総合的なマネジメントシステムを導入し、お客様と連携して品質改善に取り組んでいます。近年では、品質不正問題が大きな社会問題となり、日本のものづくりに対する信頼が揺らぐ中、世界的な流れとして製品開発・製造過程の透明性と責任を明確化する動きが強まっています。

### 基本方針

すべてのお客様を満足させる品質

- 重要品質不具合0件
- 品質の透明性の確保

## 取組事例

### 1、重大不具合の未然防止活動

#### ①重要品質部品監査

社会的信用の失墜による会社の存続が危ぶまれるような、重大品質不具合を未然に防ぐことを目的として国内外の生産拠点に対して監査指導を実施して品質力の向上に努めています。

#### ②新製品品質審査

新技術・新材料・新プロセス・新用途のいずれかに該当する製品に対する審査を実施して重大品質不具合の未然防止に努めています。

#### 審査メンバー

社長、グローバル技術開発本部、グローバル生産管理本部、法務部、知財、グローバル品質保証本部、担当事業部責任者  
製品の技術責任者、品証担当、営業担当

#### 審査内容

材質・製品特性・製品性能・構造・外観・類似品比較  
製品安全性・製造の安全性・品質リスク

### 2、自動化・IoT化の推進

製品評価・検査のIoT化・自動化を推進して、評価・検査の信頼をアップさせ、視覚化することで品質の透明性確保と工程で発生している問題を迅速に把握し、対応できる体制づくりを進めています。また得られたデータを活用して不具合の未然防止につなげています。ここでは、製造現場での測定と検査の自動化・IoT化の事例を紹介します。

#### ①製造工程(測定・検査)自動化・IoT化による品質の透明性向上

製造工程で自動測定器にて計測された生産条件と寸法データを自動的に合否判定し、現場や事務所のモニターにリアルタイムで分かりやすく表示され、透明性の高い製品品質の監視ができる。自動測定されたデータは秒単位でハードウェアに保存されて、バーコードで紐づくことできめ細かいトレーサビリティが可能となります。蓄積されたデータを活用した、生産条件の管理を行うことで、品質の向上と安定化を図っています。



パイプの自動測定機  
インラインで外径、肉厚、外観検査を自動測定器で実施し、異常を見逃さない

#### ②試験管理のIT化による品質透明性の向上

品質の透明性とお客様の信頼性向上を目的とし、試験管理のIT化を進めています。在庫・出荷システムと連携させて、一元管理のシステムを構築することで試験評価が完了していないもの、評価結果が不合格なものは出荷できないシステムとなっています。製品毎の試験項目、評価結果、出荷可否、進捗状況等の情報を多部署で共有し、未評価品・不良品の流出防止を図り、お客様の信頼性を向上させます。また、試験評価結果が自動的にPC取り込むことで、転記ミスなどの人為ミス等を防ぐことが可能になり、データの信頼性と作業効率が向上されました。



## 社会・地域貢献活動①

イノアックグループではさまざまな機会を通じて、技術支援、人材育成、文化・スポーツ支援などを実施し、社会や地域への貢献活動を推進しています。

### Quest Career in HaNoi ベトナムキャリアイベントに協賛

ベトナムの学生と日本企業をつなぐ国際イベント「Quest Career in HaNoi」に2017年から協賛・参加しています。イノアックは同イベントの趣旨に賛同し、ベトナムの学生に当社の企業理念、ベトナムでの事業発展の道のりなどをプレゼンし、グローバル企業として現地学生と日本企業をつなぐ架け橋となるよう、日本企業の魅力を伝えています。



### 日本車いすバスケットボール連盟を支援

イノアックはオフィシャルサポーターとして「日本車いすバスケットボール連盟(JWBF)」に協賛しています。またイノアックグループの井上ゴム工業はオフィシャルサプライヤーとして、タイヤ提供や交換のサポートなど車いすバスケット用タイヤの供給と開発における協力を行っています。



### 実践女子大学との産学共同研究

2017年9月から2018年3月まで実践女子大学と連携し、生活科学部生活環境学科プロダクトデザイン研究室(塚原肇教授)の3年生後期ゼミのテーマとして「スポンジの特性を活かした生活道具の開発に関する研究」を行いました。既存品にとらわれない柔軟な発想からの製品企画を目指し、イノアックが素材の提供や、試作を担当。学生は市場調査を行い既存品や市場ニーズを調べ、またイノアック各事業部の製品プレゼン、東日本イノアックの工場見学を通してスポンジの特性を知り、数回の試作、中間プレゼン・DRを経て2018年6月に最終プレゼン会を実施。自立した社会人育成の実践的な場を提供し、産学共同研究の連携を行っています。





## 社会・地域貢献活動②

イノアックグループでは被災地への支援や、国内外で起こる自然災害の復旧・復興支援にグループ全体で連携し取り組んでいます。

### インドネシア スラウェシ島 大地震被災地へマットレスを寄贈

2018年9月28日インドネシアのスラウェシ島で発生した地震・津波の被災地へ、マットレスを提供する支援活動を実施しました。「同胞を助けたい」という想いで全ての工程を社員一同の手で生産し寄贈しました。



### 北海道胆振東部地震避難所へマットレス及び物資の提供

2018年9月6日に発生した北海道胆振東部地震では、避難所への自社製品のマットレス寄贈及び、イノアック札幌営業所近隣住民へライフラインを提供しました。また、(株)東北イノアックでは震災当日すぐに支援体制をとり、(株)北海道イノアックを通じ被災地へ物資を提供しました。各拠点で連携をとり、イノアックグループ全体で貢献活動を行なっています。



### 西日本豪雨被災地への支援

2018年7月、西日本を中心に全国的に広い範囲で記録的な大雨が発生。(株)西日本イノアックでは避難所へ備品の提供とともに、豪雨による泥水の流入を防ぐため清掃用のカットウレタンを提供しました。被災地で本当に必要なものを把握することで、自社製品を通常とは異なるかたちで活用することができました。

## 女性社員の登用

イノアックでは、女性社員の能力を引き出して、そのスキルや知識を業務で発揮してもらうために、積極的に活用を図るとともに、会社へ貢献できる環境づくりを進めています。女性管理職候補者向けに「女性活躍推進セミナー」を毎年開催し、女性社員の意識改革、キャリアアップを図っています。また、男性管理職向けに「女性活躍推進セミナー」も毎年開催し、女性社員の活躍を後押しできる体制づくりを行っています。

## 女性活躍推進法施行に伴う取り組み

2016年4月女性活躍推進法施行に伴い、2016年4月1日から2021年3月31日までの5年間、女性が多く部署で能力発揮・キャリア形成できるように下記3つの目標を掲げ、女性活躍の推進に取り組みます。

### 目標

- 1 女性係長の割合を男性と同率とすることを目標に、今期は係長への昇格資格をもつ女性社員のうち、10%を係長にすることを目指す。
- 2 女性管理職登用者を発掘するために、中堅社員研修や係長研修等の受講生の女性割合を10%とする。
- 3 管理職の年次有給休暇取得率を一般職の年次有給休暇取得率と同率にする。

## 障がい者雇用

すべての人の可能性を広げる社会の実現を目指し、障がい者を積極的に雇用しています。障がい者を雇用する事により、従業員の周囲に対する気配りが生まれ意識が向上しました。

## 継続処遇制度の利用者

2015年1月から継続雇用の賃金形態を増やし、責任者としてやりがいを持てる制度を導入し、積極的に高齢者のキャリアを有効に活用できる環境づくりに取り組んでいます。

## 海外からの受け入れ

海外現地法人で働いている外国人を日本のマザー工場へ派遣し、技術習得やスキル向上のため「研修生」として受け入れ、人材を育成しています。日本で身につけた知識・経験を現地へ持ち帰って活用することにより、現地化の促進、ノウハウのグローバル伝承につなげていきます。また、海外現地法人からも「技能実習生」として受け入れを行っています。日本にて一定期間、特定の生産現場で作業をしてもらうことにより、帰国後の現場改善活動に寄与してもらっています。

## 両立支援のための制度

従業員が働きやすい環境づくり、女性の活躍推進を目的に、仕事と家庭の両立支援に積極的に取り組んでいます。育児休業規程では、子が2歳に達するまで育児休業取得を可能とし、子の看護休暇は1人の場合は5日間、2人以上の場合は10日間の特別休暇(有給)を付与しています。また、最長3年間(子が小学3年生までが対象)取得可能な「育児短時間勤務制度」を導入しています。ほかにも、配偶者出産時に取得できる5日間の特別休暇(有給)を設けています。

### 両立支援制度一覧(施行年)

配偶者出産休暇(1980年以前)  
フレックスタイム制実施(1990年)  
介護休業規程(1990年)  
ハッピーホリデー休暇(1991年)  
育児休業規程(1992年)  
母性健康管理の措置に関する規程(1998年)  
半日有給休暇取得制度(2000年)  
ファミリーサポートホリデー休暇(2005年)  
子の看護のための休暇(2005年)  
育児休業規程改訂(休業期間延長)(2005年)  
育児短時間勤務制度(2008年)  
介護休暇(2010年)



## 社員教育

グローバル人事総務部では、イノアックグループの社員が能力を高め、成長できる場として「社員教育」を提供しています。社員教育の一環として、研修では新入社員の導入研修から管理職まで50種類のプログラムが準備されており、一年を通じて研修が受講できます。また、研修以外にも、OJT制度や資格取得支援なども実施しています。

## 階層別教育

新入社員～若手～中堅～管理職、それぞれの節目で期待される役割を認識し、その役割遂行に必要な知識・スキルを習得するために「階層別教育」を設けています。階層別教育では、「意識教育」「知識教育」「スキル教育」「マネジメント教育」をバランスよく組み合わせることで、社員の能力向上を推し進めています。研修によっては、合宿もあり、社内人脈づくりも兼ねています。

## 専門教育

業務に必要な基礎知識や専門知識、技能の習得を目指す教育を実施しています。

[営業部門]・・・初級、中級レベルで営業力強化を図る  
[技術部門]・・・材料設計、成形、後加工まで学ぶ「技術者ベーシック」や、届出書の書き方や特許検索を学ぶ「知財研修」等  
[製造部門]・・・ものづくりの基本や、機械・電気の取り扱い等



## グローバル人材育成

イノアックグループには、海外に50を超える工場・事業所があります。今後、ますます進むグローバル化に対応できる人材を育成するために「グローバル人材育成」に力を入れています。「グローバル人材育成」の一環として、「海外赴任前教育」を1年を通じて、開催しています。海外駐在候補者に対して、リスク管理/マインドセット/コミュニケーション/専門教育等の単元を設けており、グローバル意識の改革を促しています。また、先輩駐在者の経験談を交えたセクションもあり、計画的に教育する体制を整えています。そして、今年から、若手社員が海外での実務訓練を実施できる「トレーニー制度」を導入しました。この制度を通じて、国内外に関わらず、海外との拠点において、中心的な役割が果たせる「グローバルリーダー」の早期育成を目指しています。

## ハラスメント防止

イノアックでは、社内のハラスメント対策として、以下のような施策を行っています。

- ① **会社方針宣言と公開**  
イノアックでは、セクハラ、パワハラなどのハラスメントに関する会社方針を宣言
- ② **相談窓口の設定**  
職場におけるハラスメントに関する相談窓口を、全国各地(エリア毎)の人事総務部に設定しています。また、女性専用の窓口や、労働組合側の窓口も設定してあります。
- ③ **社内実態調査**  
年1回「パワーハラスメント調査(アンケート)」を全社員対象に実施し、現状把握に努めています。
- ④ **ハラスメント教育**  
イノアックの全管理職に「ハラスメント講習会」を受講必須としています。

## 自己啓発

社員の学習意欲を高めるために、「通信教育制度」「資格取得支援制度」があります。通信教育制度では、毎年、100種類の講座を開設し、修了者に受講料を半額還付し、また、資格取得支援制度では、規定で定められている資格に対して奨励制度を取り入れています。このような継続的な取り組みにより、組織全体で自己啓発支援を行っています。



## 安全の理念と基本方針

- ① 安全は、企業存立の基盤である。
- ② すべての事故、災害は防止できる。
- ③ 安全は、全員の自覚と責任ある行動で達成できる。

上記の安全の理念に基づき、「安全は全てに優先する」を行動で示し、危険を予知して「止める、呼ぶ、待つ」の実践を定着しています。厚生労働省の運動行事や、過去の災害に学んだ月度重点実施事項を年間活動計画として定め、教育訓練の繰り返しと安全衛生防災活動評価による弱点の改善で、全拠点の安全衛生防災管理レベルの向上を図っています。

## 安全実務担当者安全総会の開催

1. 2018年度の総括
  - ① 安全衛生防災活動の活動報告
  - ② イノアックグループ災害統計と分析
  - ③ 通達事項・安全衛生法改正
2. 労働災害防止の教育・啓蒙活動として
  - ① 労働災害再発防止の取り組み
    - ・九州地区、東北地区(テレビ中継)
3. 2019年度の方針
  - ① 2019年度の安全衛生  
防災活動の説明
  - ② 労働組合からの提案事項



安全総会

## 全社安全衛生委員会の開催

トップ自ら行動し全員参加で取り組む安全活動として、

- ◎中央安全衛生委員会…年4回
- ◎役員による現場点検…年2回
- ◎安全衛生実務担当者会議…年6回
- ◎各拠点安全衛生委員会…毎月

上記により全社の安全・衛生・防災意識の向上と、組織風土づくりおよび再発防止の安全集会を開催しています。



トップによる安全巡視

## 安全道場で安全な人づくり

安全道場は15の体感機で『目で見て、耳で聴き、体で感じる』安全体感を経験する事により、従業員が作業中に起こりうる「危険を安全に」を体感してもらいます。それにより危険感受性を高め、危険予知能力を磨き、確実に安全行動に取り組む姿勢を身につけ、災害ゼロを達成できる職場作りに取り組んでいます。



安全道場(受講者1,000名達成)

## 健康増進に向けた取り組み

管理監督者が率先垂範するよう、知識とスキルの向上を図っています。

- ◎メンタルヘルス、ハラスメントの相談窓口を設置
- ◎分煙化の徹底として、屋外喫煙室を設置
- ◎環境対策として路面温度の低減
- ◎産業医、健康保険組合による  
学習・指導会を開催
- ◎熱中症対策



遮熱性舗装  
(赤外線を反射して路面温度を下げる)

## 防災活動

危機管理規定に基づき行動し、自然災害などによる被害を最小限にとどめ、的確な初動対応と早期復旧を図ります。

1. 大規模地震災害
  - ◎建屋と設備の地震減災対策
  - ◎地震発生時の安全防災備品と備蓄品の備え
  - ◎地震災害発生後の対応
  - ◎地域への貢献としてマットレス等の備蓄
2. 火災・風雨水害対策
  - ◎生産現場の火災・防爆予防
  - ◎風水害対応の備えと体制の確立
  - ◎気象情報配信システム導入
3. 防災教育
  - ◎防災館の設立



防災館

## 調達基本方針

### ① グローバル調達活動の推進

イノアック国内外の拠点を活用したグローバルな調達活動と、お取引先様との関係の強化を図ります。

### ② 法令・社会規範および社内規程の順守

法令・社会規範および社内規程を順守し、健全で開かれた調達活動を推進します。

### ③ 公平・公正で誠実な調達活動の推進

お取引先様に対して公平・公正な競争の機会を提供し、誠実な調達活動を推進します。

### ④ 環境・人権に配慮した調達

イノアック環境方針に基づき、地球環境に配慮した調達活動を行います。同時に紛争鉱物(コンフリクト・ミネラル)など、人権・社会問題の原因となりうる原材料の使用については、影響に配慮した調達活動を行います。

### ⑤ お取引先様との相互信頼に基づいたパートナーシップの構築

お取引先様との強固な信頼関係と連携を図り、相互に技術力および品質の維持・向上に努めます。

## グローバル拠点における最適調達の実施

原材料、部材等の現地調達を通じて事業拠点の所在する国々に貢献し、最適品質・最適価格に加え、長期的な取引を念頭に入れたお取引先様との良好なパートナーシップを目指します。またグローバル生産に対応した、より戦略性の高い調達活動を推進します。

## お取引先様とのパートナーシップ強化

お取引先様約80社と共にイノアック協力会を組織し、さまざまな活動に取り組んでいます。講演会を通じたコンプライアンスやリスクマネジメント等の啓蒙活動、また分科会での活動内容について、お取引先様代表にグループ全社の発表会にて発表いただくなど、相互の企業レベルを向上することに努めています。



## グリーン調達活動の推進

年々厳しくなる環境規制への対応を進めるため、「イノアックグリーン調達基準」を毎年改訂し、地球環境に配慮した調達活動を推進しています。また、調達物流の改善として積載効率の向上などの検討に取り組み、環境負荷の低減にも努めています。

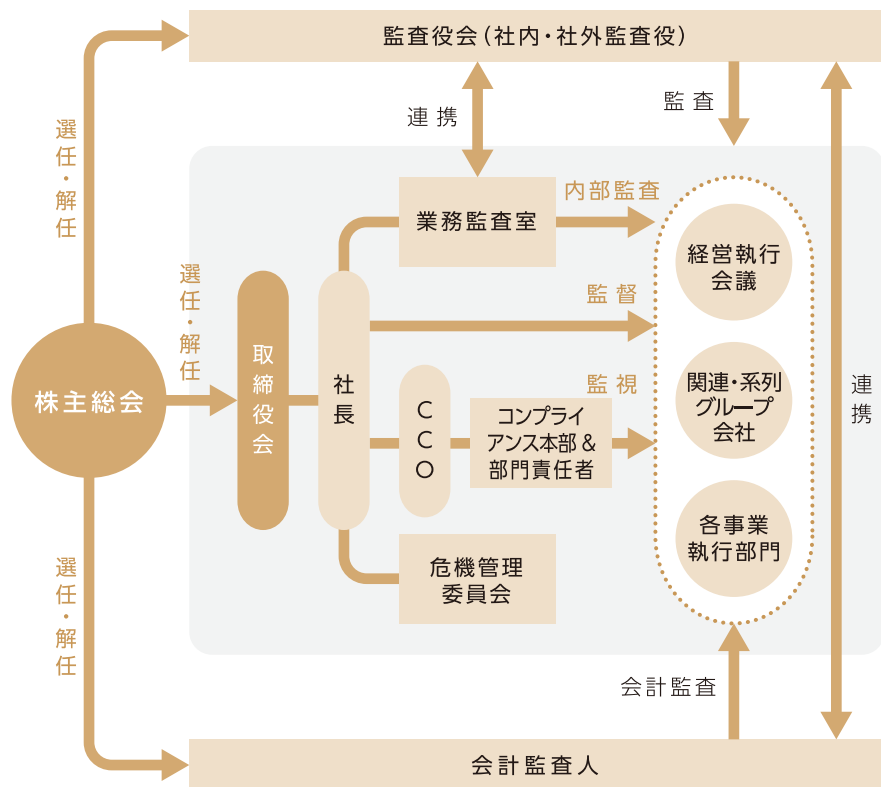
## 紛争鉱物への対応

世界有数の鉱物資源国であるコンゴ民主共和国およびその隣接国など紛争が絶えない地域において産出される鉱物が、人権侵害、環境破壊、汚職など、不正に関わる組織の資金源になっている、いわゆる紛争鉱物問題に対し、そのような鉱物を使用しない方針の下、お取引先様各社と連携し情報開示に努めています。

コーポレートガバナンスに関する基本的な考え方

イノアックは企業業績・企業価値・社会的信用性を高めるために、コーポレートガバナンス強化を重要な経営課題と位置付けています。

■ コーポレートガバナンス体系図(組織系統図)



[コーポレートガバナンス体制]

取締役会

取締役会は10名で構成されており、経営に関する重要な意思決定を行っています。各取締役より職務執行状況、財政状態および経営成績などの報告を受け、業務執行の監視・監督に当たっています。

執行役員制度

経営に関する監督責任と執行責任を分離するため、執行役員制度を導入しています。取締役会より執行権限を移譲された執行役員が、事業部・グループ会社・主要職能組織長として、意思決定の迅速化と業務運営の効率化を図り、重要な業務執行への対応を行っています。

監査役会

監査役会は、社外監査役2名を含む3名で構成されています。監査役は、取締役会等社内の重要な諸会議に出席するほか、業務執行状況の聴取を通じて、取締役の職務の執行状況を監査しています。

[内部統制システム]

職務の執行内容を法令および定款に適合させるため、さまざまな施策を行っています。

コンプライアンス

コンプライアンス推進体制と、「企業行動規範」の全社員への教育。

情報管理

文書管理規程により、各文書の保管部署・期間を定めた管理。

企業集団としての管理体制

関連・系列会社においては、関連会社管理規定を制定。業務運営ルールを明確にするとともに、必要に応じ監査役による監査を実施。

リスク管理

各種リスクに対し経営執行会議でマネジメントしており、必要に応じ危機管理委員会を開催。「マイナス情報ホットライン」の常設による、リスク情報の早期入手と対応体制を確保。



## コンプライアンスにおける基本的な考え方

イノアックでは、コンプライアンスとは法令を守ることにとどまらず、従業員一人ひとりが高い倫理観を持って行動することと考えています。企業としての社会的責任を果たし、お客様の期待に応えていくためには、法令順守はもちろんのこと、従業員が企業の一員としての社会的責任を意識することが必要不可欠です。

## コンプライアンス・倫理プログラムの導入

コンプライアンス・倫理プログラムを導入し、東京本社にコンプライアンス本部を設置しました。その統括責任者としてチーフコンプライアンスオフィサー（CCO）を任命、加えて国内および海外の各地域、拠点ごとにコンプライアンスオフィサーを、さらに各部門単位においてもコンプライアンス担当者を任命、配置しました。社内の規程を整備するとともに、従業員のコンプライアンス意識向上のための体制づくりを行っています。

## コンプライアンス教育の実施

社内規程等の整備にとどまらず、従業員一人ひとりのコンプライアンス意識を高めるため、イノアック各拠点の営業担当者、調達担当者、新入社員、中途入社社員へのコンプライアンス意識教育を実施しています。他社のコンプライアンス違反事例を題材に、自職場での問題を想定したケーススタディや、日常業務を行う中での疑問点についてのディスカッションを行い、個人の法令順守意識の向上を目的としています。

## 内部監査の実施

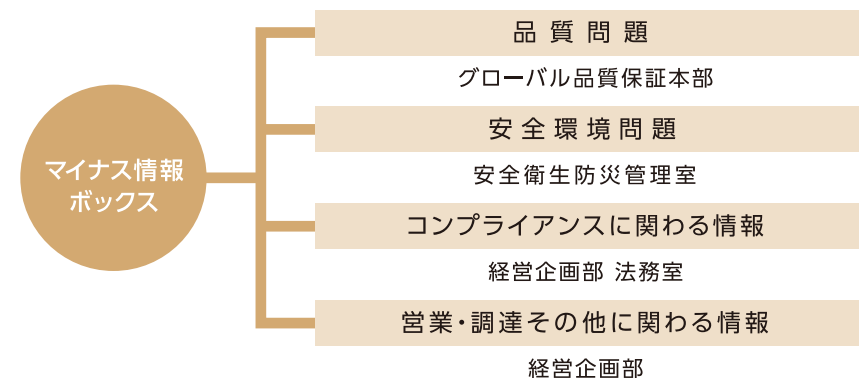
コンプライアンス、リスク管理、遵法等の観点から、各部門および国内グループ会社を対象に、実地監査を実施しています。実地監査の結果、業務改善の必要性のある項目に関しては、継続的にフォローアップを行い、イノアックグループ全体のガバナンス向上に努めています。

## 相談窓口の設置

コンプライアンスの徹底のためには、万が一、コンプライアンス違反行為があった場合に、企業として迅速な対応を取ることが必要です。そのためイノアックでは、法務グループおよび外部弁護士事務所を相談窓口とする「ヘルプライン」を設置し、誰でも直接相談できる窓口を設置しました。また、別途「内部通報および公益通報者保護規程」を設け、通報者が不利益な扱いを受けないよう体制を整えています。

## マイナス情報ボックスの設置

コンプライアンスに関わる情報のみならず、品質関連問題、安全・環境問題、営業・調達・その他の問題が発生した際には、迅速に対応し問題の拡大を防ぐため、マイナス情報ボックス（受付窓口）を設置しています。



【お問い合わせ先】

株式会社 **イノアック コーポレーション**

<https://www.inoac.co.jp/>

経営企画部広報室

〒141-0032 東京都品川区大崎二丁目9番3号 大崎ウエストシティビル 4F

TEL : 03-6680-8168 E-Mail : [pr@inoac.co.jp](mailto:pr@inoac.co.jp)